

天国への手紙

2017年12月3日放送分

Mさんへ

ラジオネーム:まこと

あなたへ手紙を書くのは何十年ぶりになるでしょうか。

私のことは覚えてくれているでしょうか。

あなたのことを思い出すことはほとんどなくなっていました、

2ヶ月前、あなたの訃報を友人から知り、若かりし頃の思い出が

次々と蘇ってきました。

中学2年生で同じクラスになり、あなたを知りました。

あなたの周りにはいつも自然と人が集まっていました。

私はその輪の中に入ることはできず、

楽しそうに笑う顔、毎日野球の練習に励み汗を流す姿を

遠巻きから見るこじかできませんでした。

少しでもあなたの近くに行きたい。そんな思いで同じ高校を

受験しました。

結局、意気地のない私には、目があれば挨拶を交わす程度にしか

関わることができませんでした。

一度だけ、地区大会を控えたあなたに「明日の試合頑張ってください

い。「このたった一言だけの手紙を送ったことがありました。」

あの時の私にはそれが精一杯だったのだと思います。

恋に恋する年頃。今となってはそう言ってしまう程の淡い感情で

したが、それでも今なお、思い出すあなたは私の中で輝いています。

今は家庭を持ち、2人の子どもがいます。大変なこともありますが、

とても幸せな毎日を送っています。

あなたが結婚したことを知った時も、お互い大人になったんだなど

思ったくらいでした。

この手紙があなたに届くことはないかもしれません。

届かないほうが良いのかもしれませんが。

あなたの若すぎる死を知り、年甲斐にもなく青春の日の思い出に

浸ってしまいました。

今は只々、あなたのこの冥福をお祈りしています。

リクエスト曲

〈 思い出がいっぱい 〉 / H2O 〈